

いにしえ 京津奈・古の三都めぐり

〈京津奈広域文化観光連携事業〉



京都・大津・奈良の三商工会議所では、古代より都のあった三都市共通の魅力である文化資源にスポットをあて、“文化財の保存と活用”をテーマに、「魅力ある文化体験」、「深い学び」を提供する付加価値の高い旅行商品を企画し、三会議所共同事業として、平成30年3月1日～4日の日程で初めて実施しました。

京都美術工芸大学の村上隆副学長に総合的な監修をお願いし、初日は大津市に於いて、事業の趣旨となる「古(いにしえ)の都に学ぶ、文化の保存とその活用について」をテーマに、開校式・基調講演を実施。2日目以降は、午前中は、専門の講師陣による座学講座で知識を深めていただき、午後からは、午前の座学をもとに実際の修復現場や、普段見ることのできない非公開の国宝や重要文化財などの特別見学を実施することで、三都それぞれの文化の魅力と、より深い学びを提供する内容といたしました。

4日間を通じて延べ258名の参加があり、大阪・兵庫といった近畿圏をはじめ、東京、神奈川などの首都圏、北陸や九州など全国から参加がありました。三都市ともフルで参加された方は11名。初日の開校式は62名の参加があり、各都市3日間でそれぞれ講義・見学に約30名の参加がありました。期間中は晴天にめぐまれ、早春の三都市で奥深い文化観光を体験していただくことができました。

開校式
基調講演

3/1

於 大津商工会議所

- ①「古都文化財の魅力と継承」 京都美術工芸大学 副学長 村上隆氏
- ②「文化観光の魅力」 文化庁地域文化創生本部 事務局長 松坂浩史氏

村上副学長からは、ものづくりの歴史的な成果である文化財の保存と継承について、松坂局長からは、文化行政のこれからと観光との関わりについて講演いただきました。



●座学講座 於 三井寺(園城寺事務所)

大津 3/2

- ①「日本の文化財保護黎明期と大津」 京都美術工芸大学 副学長 村上隆氏
- ②「仏像の修理の実際」 楽浪文化財修理所 所長 高橋利明氏

村上副学長からは、明治時代初期に来日したフェノロサやモースによって進められた文化財保護行政の変遷や大津との関わりについて、高橋所長からは、仏像などの修理の必要性や実際の手法などについて説明いただきました。

●課外講座 園城寺(三井寺)・光浄院・法明院・楽浪文化財修理所

園城寺の福家執事長の案内により、狩野光信筆の襖絵などが収蔵・展示されている三井寺文化財収蔵庫をはじめ、書院造の遺構



として世界的にも有名な光浄院客殿(国宝)にて室内の狩野山楽による障壁画や庭園を見学。その後、フェノロサの墓やフェノロサが生前愛用したものが保存されている法明院(非公開文化財)を見学。最後に楽浪文化財修理所にて、高橋所長の解説により、修理道具や実際の修理の工程等について見学しました。

●座学講座 於 京都美術工芸大学

京都 3/3

- ①「京の歴史と文化、そして洛中洛外図の世界」 京都美術工芸大学 学長 冷泉 為人氏
- ②「神祇装束調度品と京都の伝統工芸」 京都伝統産業ふれあい館 館長 八田 誠治氏

冷泉学長からは、洛中洛外図の描写方法に見られる西洋文化と異なる日本独特の曖昧な情緒的、推量的表現方法について、八田館長からは、京都市における伝統産業の位置付けやその歴史的な背景、神祇調度品などについて講演いただきました。

●課外講座 宇佐美修徳堂・今宮神社・仁和寺

松ヶ崎の宇佐美修徳堂にて宇佐美社長の解説により表具の修理工程や修復された作品を見学。その後、今宮神社の本殿を正式



参拝し、京都表装協会の協力により修理、美しく軸装に仕立てられた伊藤平左衛門筆「今宮神社十分ノ一図面」について今宮神社の佐々木宮司と宇佐美社長の解説により見学。最後に世界遺産・仁和寺へ移動し、平時公開されていない金堂(国宝)と経蔵(重要文化財)内部を特別に見学しました。

●座学講座 於 春日大社感謝共生の館

奈良 3/4

- ①「正倉院宝物の美」奈良国立博物館 学芸部長 内藤 栄氏
- ②「奈良の文化財保護の最前線」 京都美術工芸大学 副学長 村上 隆氏

内藤部長からは、東大寺の倉庫として作られた正倉院について、主に献納品として現在9000件程度收藏されている宝物や1250年もの間維持されてきた建物の特徴などについて、村上副学長からは、新しい調査方法による文化財保護の最前線について講演いただきました。

●課外講座 春日大社・興福寺

春日大社中野権禰宜の解説により、国宝殿や回廊を案内いただくとともに、昨年10月に第60次式年造替正遷宮を終えた社殿に



て正式参拝。徒歩で興福寺へ移動し、約300年ぶりに創建当初の規模で蘇る中金堂の工事現場を特別見学。その後、今年リニューアルされたばかりの国宝館にて阿修羅像はじめ多くの仏像、工芸品等を見学しました。

事業を終えて

参加者からは、「生涯見ることのできない修復過程をみる事ができた」、「いつもとはひと味違う旅となった」など、普段とは異なる三都の文化財に触れることができたこと、専門家による解説なども好評価をいただき、概ね8~9割の方にご満足をいただく結果となりました。京都・観光文化検定試験や奈良まほろばソムリエ検定を受験中の方も多数参加していただき、今後は、それぞれの支援講座としての連携も期待できます。本事業は、今回を含め3年間の事業として「三都市をめぐる広域文化観光」をテーマに試行的に実施を積み重ね、事業としての実現可能性を検証してまいります。